

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

心 の め ば え

アヤと過ごすジイジの日記

<30>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

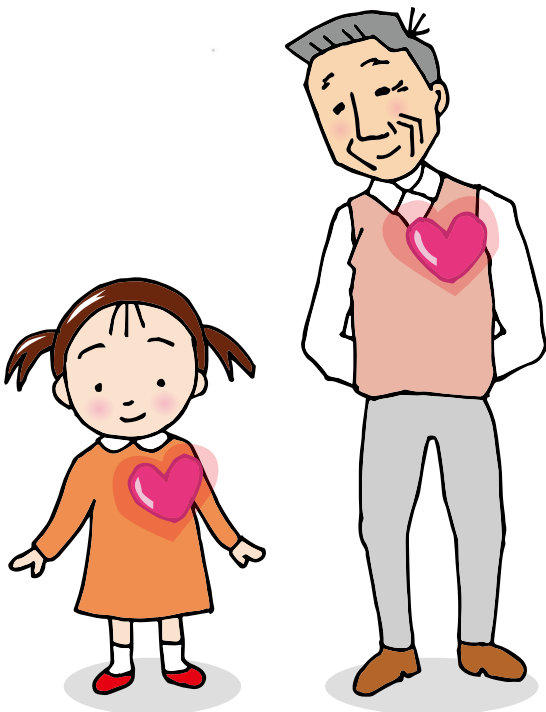
心は見えない

ジイジはアヤの言動をもとにして心の発達を見守っている。これまで「心」という言葉を当たり前のこととして使ってきたけれど、そもそも「心」とは一体何なのだろう。

目や耳などは、顔のどこにあつて、カメラやマイクロフォンと同じような働きをしているといふことは誰でも知っている。ところが、「心」は見えないし触ることもできない。ましてやその働きを説明するのも難しい。それでも、誰もが心は存在すると思っている。心とは、各人が持つているある種の機能として、暗黙のうちに認められているのだ。心って不思議な存在だ。

ジイジはアヤの心の成長を観察しようと思つているが、アヤの言動だけからその心を完全に理解することが出来るのだろうか。ジイジ流に勝手に、アヤの心を推測しているだけなのではないだろうか。人の心を理解するには、人の行動を外部から観察して推測するしかないのだろう。外から手を加えて心を調べることはできないのだ。

物理や化学の実験を考えてみよう。ある物質の基本的構造を解明したいと思つたら、その物質を壊したり、燃やしたり、圧縮したり、他の物質と混ぜ合わせたり、あらゆる可能な外的作用を施して、物質の機能や構成要素を調べ上げる。このような徹底した分析を通して、その物質の基本構造が解明されていく。



人の心と行動の学問である心理学の研究には、物理や化学の実験と同じ手法を用いることができないのは明らかだ。そこでどうするかというと、人の行動からその基になる心の働きを推測するという手法を取るようになる。しかも、ただ二人の人間の行動だけを取り出すのではなくて、沢山の人の平均的な行動を元に心の働きを推測するという手法が最も信頼できるやり方であろう。実際、発達心理学の分野で行われている研究では、ほとんどそのような手法が取られている。ジイジは、アヤ一人だけを観察しているから、客観性には欠けると思われるが、人類学者が類人猿の二個体のみを長期間にわたつて観察して、その行動から類人猿の知性や心の働きについて研究していることを考えると、全く無意味なことをしてしているわけでもなさそうだ。

人の心について研究するこのやり方は、どこか天文学の研究手法に似ている。天文学では、太陽系外の星や銀河を調べるのに、その星や銀河まで行つて研究することはできない。そこでどうしているかというと、望遠鏡やパラボアンテナを使った光や電波による観測をするしかないのである。この点で物理や化学の実験とは根本的に違っている。天文学では、観測データのみを基にして分析を行うのである。だから、心理学の研究手法は物理や化学の実験的研究方法よりは天文学の研究手法に近いように思われる。

「心のめばえ」のバックナンバーは、牟田のホームページでも読むことができます。下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると簡単にアクセスできます。



ジイジへのお便り

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@presnet.co.jp
「心のめばえ」係へ

プロフィール むた・たいぞう 1937年、福岡県生まれ。九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修了、理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力学」(裳華房)などがある。東広島市在住。